

雨 夜 閑 談

鴨 汀 情 人

2. ニウ ト ン 漫 談

アイザック・ニュートン卿と言へば大變な偉いお方で、物理學界で言へば先づ孔子様である。で此のお方の生涯なり業績に就てはごなたもよく御存知の事であるので、そんな事はこゝでは申しません。今夜は雨が降る。天文學者には雨降りの夜は暇な晩と言ふ事である。で今晚は一つニュートン卿に關する漫談を申しませう。鴨川の水のせせらぎの音がしこやかに雨の音に織り込まれて響く。ニュートン卿は天文や物理學界では孔子様だと言つたが、西洋人に言はせるご人類の救主エズム・クリストスである。その證據にはニュートン卿のお生れになつた日が丁度聖誕祭の十二月二十五日ではないか。いやそれどころかクリストの生れた日は全くの出鱈目に決めたものだと言ふ事だがニュートン卿の生れた日は正確に知れてゐる所から見ればエズム以上の偉い方に違いない。だから東京帝大でも京都帝大でも理學部では十二月二十四日にはニュートン祭と言ふものをやる。丁度去年のニュートン祭に疏水博士の田邊朔郎先生が話された話が大變面白い。Sir Issac Newton の Sir は日本語では「卿」なんか言譯されてゐるけれど、これは英吉利で言ふごもつご格のよいものだそうである。Sir は一寸別にして Lord なんか言ふご日本では男爵位に考へてゐるけれど、ほんごうは古い日本で言ふ例へば尾張侯徳川伯爵と言ふやうな侯にあたるようです。英國で Lord と言ふご皆な領地をもつてゐるので此のロードはその領地の名前で呼ぶそうです。所が面白い事にあの有名な物理學者の J. J. Thomson 卿です。此のお方がロードになられた時に、もごより學者に領地があらうはずがない。そこで、ケムブリッヂ大學の中を流れてゐるケルヴィン川の名をこつて Lord Kelvin がお名のりになつた。……いや大分横道に入つてしまつたが、……所で Sir Issac Newton の Sir と言ふのは此れは昔で言へば騎士 (Knight)

の位で、王様がその Sir の位を授ける儀式と言ふに、先づ Newton なら Newton をおよびになつて「Mr. Newton 云々」とお呼びになる。と Mr. Newton が王様の前に恭々しくぬかづく、それから何か然るべき儀式があつた後で王様が劍を抜いてニュートンの肩をおたゝきになつて、「Sir Issac Newton, お立ちなさい」とお仰になり、これで Sir の位がさづかる……と言ふやうな田邊先生のお話。所で諸君！春汀情人思ふに、日本語も斯うゆう場合には面白いではないか。「Sir Issac Newton, お立ちなさい」「サア、アイザック・ニュートン……」「サア・お立ちなさい」……何ぞ面白いではありませんか落語家の話みたいですね。

ニュートン卿と言へば、波型の美しい房々した頭髪を誰しも想ひ起すであらう。があればあの當時英國で流行したかづらだそう。かづらと言へば保守的な英國では今でも法律官などはやはり此のかづらをかぶるそうである。所が、こゝで問題となるのは、然らばニュートン卿のほんごの頭はさうであつたか。傳ふる所に依ればニュートン卿はツルツルはげ頭であつたそうである。然しハゲ頭であつたからと言つてその爲めにニュートン卿の偉さが、少しも下るわけではないのだ。昔から偉い學者のうちの多くはハゲ頭であつた。實際の話が、學者は段々年をまつて來るご頭がハゲて來るか或は白髪にならねばいけない。五十になつても六十になつても黒い髪ををしてゐるのは難有味が乏しい。達摩さんでも聖フランシスコ上人でも頭がハゲてゐた。そうするごそこから諸君も御承知の通り御光がさして來るわけである。ニュートン卿もハゲ頭であつたと言ふ事は取りもなをさず卿の頭から御光がさしてゐたと言ふ事で、その御光は又こりもなをさず學者の光である。然しニュートン卿は非常に謙遜な方でゐらつしやつたからあの波型の房々したかづらでその御光をかくしてゐられた。

ニュートン卿に関しては色々面白い話もあるが、雨夜閑談の頁數もかぎられてゐるので、今夜はこれ位にして、あさは又此の次の雨の夜の徒然にいたしませう。サアサア皆さん空が晴れて來たから星でも見給え！！